



## 2026年1月28日に開催された 2025年度第7回理事会(定例)の概要をお知らせします。

### <決議事項>

#### ●2026年度運営方針について

- ・2026年度の事業方針と重点実施項目を決議いただきたい。
- ・重点実施項目は、代表強化、競技普及、マーケティング、社会貢献、組織改革の5つの事業方針に連動した形で全5項目を策定した。

### 【決裁事項】

提案のとおり、2026年度運営方針について承認された。

#### ●評議員選定規程の新設およびガイドライン・評議員選定委員会運営細則の廃止について

- ・評議員選定委員会で選定指針となるための規程が必要となるため、現行の役員選定規程をベースに現行の「評議員選定におけるガイドライン」「評議員選定委員会の運営細則」を包含する評議員選定規程の新設を行いたい。
- ・これまで評議員会・理事会で長きにわたり議論を重ねてきた内容を反映している。
- ・なお、評議員選定におけるガイドラインの改廃手続きは事前に評議員の合意が必要となることから、11月の臨時評議員会で廃止の意思確認を行った。
- ・選定規程の詳細内容（評議員候補者の選任基準、構成の内訳目安等）については別紙規程の通り。
- ・今後開始する次期評議員推薦依頼は本規程に基づき進めていく。

### (別表1) 評議員内訳目安

役職/所属	人数	備考
加盟団体代表	9	9ブロック区分より必ず男女1名ずつ推薦するものとする。
法務	1~2	
会計/監査	1~2	
経営/ガバナンス	4~5	
学識経験者	1~2	
アスリート	3~5	



スポーツ※／他 NF	3～4	※ビジネス・マーケティング・クラブ運営等を広く含む
他の公益法人	1	
定数	20～25名	

#### 【決裁事項】

提案のとおり、評議員選定規程の新設および評議員選定におけるガイドライン・評議員選定委員会運営細則の廃止について承認された。

#### ●評議員選定委員会の設置および委員の選任について

- ・2026年度の評議員改選に向けて、評議員の選任を行うための評議員選定委員会の設置と委員の選任を行う。
- ・任期：2026年1月28日～2030年6月の定時評議員会終結(次期評議員の任期満了)の時まで
- ・評議員選定委員はそれぞれの属性から選出された5名構成となる。

評議員1名／監事1名／事務局長1名／外部委員2名

※外部委員は業務執行理事会で協議の上推薦

#### 【決裁事項】

提案のとおり、評議員選定委員会の設置および委員の選任について承認された。

#### ●報酬委員会の設置および委員の選任について

- ・2025年度の業務執行理事・専務理事・会長の評価ならびにJVAの常勤役員報酬について検討する委員会として報酬委員会を設置する。
- ・任期：2026年1月28日～2026年度の常勤役員報酬が確定の時まで
- ・報酬委員会委員案の構成は以下の通り。

理事4名、監事1名、事務局長1名（内、継続4名、新規2名）

#### 【決裁事項】

提案のとおり、報酬委員会の設置および委員の選任について承認された。

#### ●ブロック理事長会規程の改定について

- ・JVAの組織見直しに伴い、進行中の規程一斉整備のなかで「全国ブロック理事長会」に関する規程も見直しを行った。



#### 【主な変更点】

- 用語の定義・所管事項、選定基準を追加  
→ JVA とブロック/都道府県との情報整流化、施策の執行に向けた項目およびブロック理事長から JVA 理事につながることから年齢基準を明記
- 開催に関する詳細を記載（理事会等の規程を参考に必要事項を記載）  
→ 現時点では情報整流化に向けた役割・期待が大きいことから、代理出席を容認するが代理出席対象をブロック連盟構成員に限定。
- 招集や決議、報告、議事録、ブロック理事長の解任に関する事項を追加  
→ 選任時の手続きは業務執行理事会だが、解任は重大事項として理事会決議とする。

#### 【決裁事項】

提案のとおり、ブロック理事報会規程の改定について承認された。

#### ●懲戒規程の新設ならびに新設に伴うコンプライアンス規程・委員会規程の改定/就業規則の変更報告について

- 前回のコンプライアンス事案の対策として、JVA 職員に関する処分審議のスピード化が必要であることから、企業に倣い職員の処分審議は「懲戒委員会」で審議のうえ会長に答申し、職員の任免を行う会長が決定する形としたい。
- これまで職員の処分審議もコンプライアンス委員会に委ねていたため、時間を要してしまう状況にあった。
- 今回、懲戒委員会を運用するために「懲戒規程」を新設し、職員の処分審議は懲戒委員会で行うことを規定する。それに伴い関連する規程の（コンプライアンス規程、委員会規程）改定もお願いしたい。
- 就業規則は職員代表の意見を聞いて、代表理事が改定を行うこととなるが、就業規則の大きな変更点として、懲戒の種類に「諭旨退職」を追加することを報告する。

#### 【決裁事項】

提案のとおり、懲戒規程の新設ならびにコンプライアンス規程・委員会規程の改定について承認された。

#### ●懲戒委員会の設置および委員長の選任について

- 懲戒規程の新設を受けて、委員長の選任を行いたい。
- 委員長は専務理事、委員は業務執行理事および事務局長とする。
- 規程に基づき、懲戒委員会委員長に國分専務理事を選任したい。

#### 【決裁事項】



提案のとおり、懲戒委員会委員長の選任について承認された。

### ●重要な使用人の選任および退任／役員の担当職務の変更について

- ・重要な使用人の選任（変更点は下線部の通り）

○中西 幸治 [役職] 競技普及グループ シニアダイレクター(新任)

○藤山 太郎 [役職] マーケティング&プロモーショングループ シニアダイレクター（退任）  
[担当] イベントプロデュースプロジェクトリーダー（退任）

- ・役員の担当職務の変更について（変更点は下線部の通り）

○灰西克博 [役職] 業務執行理事／競技普及担当（継続）  
競技普及グループシニアダイレクター代行（退任）  
[担当] 組織基盤改革プロジェクトリーダー（継続）

○内藤拓也 [役職] 業務執行理事／HP、ビーチバレーボール（継続）、マーケティング担当（新任）  
マーケティング&プロモーショングループ シニアダイレクター代行（新任）  
[担当] 技術委員会、国際渉外、中期経営計画担当（継続）  
イベントプロデュースプロジェクトリーダー（新任）

### 【決裁事項】

提案のとおり、重要な使用人の選任および退任、役員担当職務の変更について承認された。

### ●臨時評議員会の開催目的について

臨時評議員会の目的事項を以下の内容で提案する。

1. 日 時：2026年3月27日（金）15：00～17：00
2. 場 所：JVA 会議室を開催場所とするオンライン会議
3. 決議事項  
(1) 次期評議員候補者（評議員会推薦）の決定について
4. 報告事項  
(1) 2026年度運営方針および事業計画について  
(2) 2026年度予算および2025年度収支予測について  
(3) 新社会人リーグの方針決定について  
(4) 強化拠点に関する方針決定について  
(5) 中期経営計画進捗報告  
(6) 各種規程の改定について

### 【決裁事項】



提案のとおり、臨時評議員会の開催目的について承認された。

### ●規程類一斉整備について

- ・前期より進めてきた規程一斉整備において、既存の規程の中で4月より一部読み替えにて対応していた箇所、現在の運用と乖離が起きている項目、規程自体が不足していた項目について対象15規程について改定（12規程）、新設（1規程）、廃止（2規程）を実施する。
- ・表彰規程
  - 取り扱う表彰および推薦方法・表彰時期の整理を行った。
  - 表彰基準に過去のコンプライアンス事由に関する処分歴・指導状況等も審査対象に加えた。
  - 推薦書は新様式に移行し、感謝状についても推薦書に記入を要することとした。

#### 【決裁事項】

提案のとおり、15規程および表彰規程について承認された。

### ●バレーボール日本代表 VNL 賞金の配分について

- ・バレーボールネーションズリーグ2025において男女日本代表チームが獲得した賞金について、日本代表チームに関する獲得賞金配分および報奨金規程に基づき、該当の選手とスタッフに対し、賞金の配分及び支給を行う。
- ・チーム賞金は総額から5%を控除し、当該金額をJVAの普及事業に充当するものとする。  
また、個人賞金については、40%をチームへ配分し、残りの60%を受賞者本人へ支給するものとする。）

#### 【決裁事項】

提案のとおり、バレーボール日本代表VNL賞金の配分について承認された。

### <報告事項>

#### ●2025年度第3四半期職務執行報告書

法令および理事会運営規程に基づき、2025年度第3四半期の職務執行報告が会長、専務理事、業務執行理事、グループシニアダイレクターより行われた。

#### ●2026年度予算について

2026年度の予算調整を今まさに進めており、一次予算という形にしている。例年よりも調整回数を重ね、中期経営計画進捗管理委員会の中でも指摘を受けたりしている。今年度について、当初は各部門に今まで実施できていなかった事業も含め、予算上の可否にかかわらず、実施したい事業は全部行うことを前提に予算を出してもらった形とした。そのため、予算というよりは一次要望を受けた形となっている。この要望を1回戻し、さらに調整を行ったのが今回の1次予算となる。3月の理事会までには時間があるため、部署内での優先度をつけ、縮小も含めて改めて見直しを行っていき、調整した結果を2次予算



の最終予算案として理事会承認を受けていくかたちで進めたい。

収益：3,818 百万円  
費用：4,400 百万円  
利益：▲581 百万円（特定資産取崩 395 百万円）

変動要素として予算に盛り込んでいない「新強化拠点」、「新社会人リーグ」「VNL 第 3 週の日本開催」については状況が明確になり次第、予算に反映していきたい。

### ●2025 年度収支予測について

現時点での第三四半期までの実績と着地見込みになる。

収益：3,371 百万円（予算差+608 百万円）  
費用：3,004 百万円（予算差+239 百万円）  
利益：366 百万円（予算差+368 百万円）

当初は予算がほぼ均衡のマイナス予算であったが、結果的には 366 百万円のプラスが出る予想となっている。収益として一番大きいのはマーケティングとハイパフォーマンスであり、特に親善試合を男子は 4 試合実施したことの収益は大きい。費用分を差し引いてもかなり貢献している点も含めて、今年度はある程度いい形となっている。各部署に協力を仰いでいるのは、26 年度は厳しい予算であるため 26 年度に間違いなく経費として使うものがあるのであれば、25 年度内に使用できないかを問いかけている。とはいえ、25 年度の残った利益分は特定費用の積立に回せば来年度以降も活用はできるため、利益はしっかり確保し、特定積立の対象年度に間違いなく使えるようにしていきたい。

### ●中期経営計画進捗管理委員会の経過報告について

石塚委員長より 3 か月ごとの進捗確認結果を受けて、総括的な積み残しと課題について報告があった。

#### ①代表強化

インドア：

オリンピック後の移行期であることから、試合結果を求めるより、強化に努めると理解している。男女ともに大型の選手をどのように育成していくか、昔からの課題であるが、その取り組みを始めている。また選手だけでなく、アナリスト・コーチの育成も海外派遣も含めて、南部シニアダイレクターを中心に考えている

ビーチ：

男子選手の強化が急務である。インドアのトップに近い選手が代表に入ることが、世界的な結果にもつながっていくと考えているため、SV リーグにも理解をいただき、普段から交流を高め、なるべくハイレベルの方をビーチにも出場いただけるような体制を整えていく。



## ②競技普及

協会の最優先事項として、MRS 登録管理システムの改修と新登録制度を 2026 年からスタートさせるということで、灰西業務執行理事を中心に進めている。1 つは都道府県協会に理解をいただき、推し進めていく。ただし、都道府県協会からは登録料の増額により、登録選手が減少するのではないかと懸念する声もあがっている。実際、登録料の値上げに伴い、増収分の用途を競技普及の拡大に活かしていくことを明確化した。登録料の増額による収入が 2 億円を見込んでおり、まもなく 2 回目の告知がなされ順調に進んでいるとの報告を受けている。

## ③マーケティング

30 数億円の予算のうちスポンサーから得られる収入が一番大きなものとなるが、関係者内での協力もあって集まっている。バレとも会員数の増加に向けては、VNL や壮行試合のチケット発売と連動して会員が大きく増えているため、目標数を上回っている。一方で課題も多く、スポンサーやバレとも会員以外に新たな発想を入れたマネタイズプランのアイデアはあるものの、簡単には収入増に結び付かず、停滞案件となっている。この辺りのマーケティング活動に伴うマネタイズによる収入アップを SV リーグ含めて交えて考えていただきたい。

## ④社会貢献

ビーチクリーンなど、草の根の活動はあるものの、協会として何を行っていくのか、打ち出せていなかったが、社会貢献委員会が発足し、アスリート委員会との連携がようやく始まったことから、これから中期的なテーマに向けて、具体化していく。

## ⑤組織運営

ブロック理事長との連携強化を掲げており、中期経営計画のテーマには具体的な施策は記載していないが、組織内部も改善すべき部分はある。

## 委員長からの総括

2 年間の委員会活動を通して感じたことは、本来中期計画をベースに事業計画を毎年策定し PDCA を回すのが軸である。しかしながら、日常業務と事業計画の進捗と中長期というテーマと次元が異なるものが一緒くたとなっているため、KPI 設定の見直しが必要である。また管理会計については、収入の入口と支出の出口が構造的に一致しておらず、PL 責任という考えが基本的にはないことにより、他部署を跨いで收支の認識が出来ていないところがある。管理会計をしっかりと行った上で、中身を吟味していくことが重要である。また、組織が縦割りとなっており、業務の固定化など課題も浮き彫りになっているので、外部の意見を交えながら、組織運営の強化と改善につなげていきたい。

## ●功労者 II 表彰決定について



- 第16期（2025年度）第2回功労者Ⅱ表彰授賞者
- ・荒谷敏／宮城県バレーボール協会

### ●強化拠点に関する進捗報告について

前回の理事会以降スポンサーを含めて協賛者を募り、色々と調整をかけている。ふるさと納税の話についても少し触れたが、結果的に企業版のふるさと納税は使えないという結論になった。

民間の施設に導入することはハードルが高いため、断念せざるを得ない。いくつかの企業に当たり、出資を期待していたが、日中の関係の影響もあり、状況が良くない傾向にある。基本となる協賛社をしっかりと確保することを最優先とし、地元の支援を受けてこそ、実現可能なため、引き続き対応していきたい。先日、神戸の商工会議所主催の説明会を実施した。反響は非常にあり、現地としては、かなり前向きに応援してくれているため、色々と支援やサービスが得られるような体制としていきたい。ただし、施設を改修することによる初期投資および年度負担をどうしていくのかなど、費用面で道筋が立っていないため、当初は3月の理事会に向けて実施決議の予定でいたが、経過報告とする可能性が高い。多方面からのアドバイスをいただきながら、タイムラインの見直しも含めて、近々に調整していく。

### ●国際渉外諮問委員会の進捗報告

鈴木委員長より報告があった。

ここ2年ほどネーションズリーグは、JVAが実際には主催者ではないという状況が続いていた。それは各種権利系の問題も含めて、そのような立ち位置であった。それを川合会長も含め執行部の要請により、JVAが主催者として戻ることを目的とした国際諮問委員会が立ち上がり、途中から国際渉外諮問委員会となったのが背景である。その結果、26年度は数年ぶりにJVAがFIVB/VWとともに主催できることとなった。開催場所は関西エリアとなり、自治体の長と川合会長が一緒になって正式発表することが決定している。

### ●社会貢献委員会の進捗報告

松永委員長より報告があった。

前回の理事会の説明でのご意見を受けて、アスリート委員会の方にも参加いただき社会貢献委員会を開催した。社会貢献委員会の立ち位置や役割どこまでが役割について話した。委員会として確認すべき点は、特に優先順位をつけ、企業が推進しているESG(環境・社会・企業統治)に紐付けてバランスよく社会貢献が実施できるように可視化と分類分けをしっかりとしていく必要があるということ。また中期経営計画の策定時は環境委員会という位置付けであったものが、途中で社会貢献委員会に変わった背景もあるので、中期経営計画の中で擦り合わせて、課題に大きなズレがないように連動性を確認して落とし込んでいく重要性を私たち委員会として発信していきたい。

また、事務局サイドでも社会貢献に関わる場所の意見がでているため、レベル感のすり合わせを現場



との兼ね合いも含めて調整し、PDCA サイクルを数値化してチェックしていきたい。

### ●新社会人リーグの参加チーム内定について

新社会人リーグの参加チームを募り、参加申し込み書類の提出があった。その後、書類審査を行い、改めて意向確認を経て、内部で議論した結果、男子 16 チーム、女子 7 チーム（1 チームは検討中）を確定した。

### ●ロサンゼルス五輪出場権獲得について

#### ○インドア

まずは 2026 年度 8 月から 9 月にアジア選手権で優勝できれば出場権を得られるため、来年度最大目標としている。男女ともに（この後川合庶 SD から補足があるが、ビーチバレーボールの方も来年度にオリンピック予選があるため）、26 年度に全カテゴリーが出場を決めることができれば、満点だと思っている。ただし、そこで獲得できなかった場合は、インドアの場合は 2027 年度に開催される世界選手権でまだオリンピックの出場権を取れていない国の上位 3 チームが権利を与えられることになる。現時点に決定しているのが開催国のアメリカとなっている。26 年度に開催される各大陸選手権で、五大陸の 5 枠が決定し、27 年度の世界選手権で 3 枠が決定し、28 年度のオリンピックイヤーに残りの 3 枠を決定していくことになる。残りの 3 枠はパリ五輪の出場権が与えられた時のルールと同様に、2028 年ネーションズリーグの予選ラウンドが終わった時点での世界ランキング上位 3 チームに出場権が与えられる。計 12 チームが出場する。アジアの最大のライバルとして、女子は中国、男子はイランと中国となる。

#### ○ビーチ

ビーチバレーについては、パリ五輪まではそのオリンピックの開催の年にアジアの代表の枠が決まっていたが、昨年 12 月に FIVB から変更の発表があり、今年 2026 年度はアジア選手権で優勝したチームが大陸枠として出場権を獲得できるという大きな変更があった。元々の強化プランとして 2028 年の 6 月末に行われるコンチネンタルカップアジアの最終予選で、男女とも出場権獲得を狙っていたところが 2 年前倒しとなったことから、急ピッチで強化方針を変えて、このまま戦っていかなくてはならない。いずれにしても 2026 年に中国、カタール、ウズベキスタン、イランこの 4 カ国のどこかでアジア選手権が開催される予定である。来年の世界選手権の優勝チームが 1 枠と 2027 年の 1 月 1 日以降から 2028 年の 6 月中旬までのオリンピックランキングで 14 位（昨年までは 17 位であった）までのチームが出場権獲得できる。残る 3 枠については世界の最終予選という形で 3 大会実施するような話ではあることから、一応世界最終予選としての望みもまだ残っているため、強化の大きなプランの変更を行っている。現状、男子は世界ランキング 100 位に入っているチームはいない。女子は去年の世界選手権で 17 位に入ったチームがいる。ただ世界選手権に関しては各国から 4 チーム最大出場していることもあり、その中での 17 位のため、国別でいうと上位に位置している。



中期経営計画の中の目標にも入れているが、男子に関しては、今年のアジア選手権では8位を目標にしていることから、現状で戦うのは厳しい部分がある。ただし、スティーブ監督は今までは選手ファーストでチームを決めさしていたところを、監督がこのチームで世界に戦うための選択を行い、強化していく取り組みを行っているので、可能性に期待したい。

以上